

第1学年 中学校社会科歴史的分野 学習指導案

1. 単元名（題材名）

武士の台頭と鎌倉幕府

2. 単元目標

◇ 《情意面》

武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。

◇ 《知識・理解、技能面》

武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きについての課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察する。その際、考察するための資料を収集し適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり説明したりする。これらの活動を通して、知識を確実に身に付ける。

3. 単元設定の意図

○ 《教材観》

天皇・貴族中心の政権から武士の政権に変わる時代であり、歴史の流れを大きく捉えさせる場面として適した単元である。細かい知識には深入りせず、因果関係に着目する問いを設定し、思考力・判断力、表現力を身に付けさせたい。

○ 《指導観》

そこで、指導に当たっては次のような工夫をする。

ジグソー学習を単元全体に取り入れる。ジグソー学習とは、まず、グループごとに単元の鍵となる知識を一つ学習させ、その内容を他人に説明するための準備をする活動をおこなう。その後、それぞれ異なる知識を学んだ生徒が新しいグループをつくり、それぞれが学習した内容を教え合う学習法である。この学習では、知識を獲得する最初の段階において、生徒が考えてみたくなるような問いを設定すれば、生徒が意欲を持ち、自分で問いに答えるために調べ学習をおこなうであろう。この活動を通して、資料から必要な情報を取り出しまとめる力などが養える。さらに、新しいグループでは、調べた内容が分かる人は自分一人なので、責任を持って取り組み、他人を説得するために必要な表現力が養える。また、協同することの大切さも学ぶことができる。これらの活動を通して、生徒に忘れることのできない知識として定着させたい。

また、成果物として発表用の原稿や実際の発表が得られるので、これを評価の対象とすることができる。学習したことを再生産するテスト的なものではないので、生徒の関心・意欲・態度や思考力・判断力・表現力を評価できる。（パフォーマンス評価に当たると考える）

4. 評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
題材・単元の 評価規準	・ 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。	・ 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考	・ 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究	・ 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史とかかわる東アジア世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けてい

		察している。	し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。	る。
学習活動における 具体の評価規準	①武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きについての関心を高め、課題を意欲的に追究している。 ②調べた内容について、意欲的に意見交換し、発表している。	①課題を多面的・多角的に考察している。	①様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめている。 ②わかりやすい発表資料を作成し、説明している。	①この活動を通して、武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きについての知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・発表用原稿 ・実際の発表及び、発表における児童生徒の相互評価 ・学習の過程を通しての自己評価 (単元全体を通して、小学校で持っている知識を活用し、新たな問いについて考えさせる過程で評価を行う、いわゆるパフォーマンス評価を実施している。) 			

(注) ■の部分、今回の指導案では十分指導できないところ

5. 学習計画（指導と評価の計画）

	学習内容・学習活動	評価規準				評価方法
		関	思	技	知	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きについての課題から、自分が調べようとする課題を選択する。 (学習内容の把握) ・実際に調べる。 	①	①	①	①	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、課題について考察する。 ・発表用資料を作成する。 	①	①		①	発表用原稿
3	<ul style="list-style-type: none"> ・別グループで発表する。 ・お互いに質問する。 	②		②	①	実際の発表及び、発表における児童生徒の相互評価
4	<ul style="list-style-type: none"> ・もとのグループに戻り、質問事項を踏まえ、最終的な結論を考える。 	②	①		①	学習の過程を通しての自己評価

6 学習計画細案

(1) 主眼・ねらい

天皇・貴族中心の政権から武士の政権に変わる時代の流れを捉え、武士政権の特徴を理解し、知識として定着させることを主眼とする。

主眼を達成するため、ジグソー学習を取り入れる。

(2) 準備

調べる活動ができるように、図書室やコンピュータ教室を確保する。

(3) 学習過程

学習内容・学習活動	予想される児童・生徒の反応	教師の支援
<p>MQ 鎌倉の武士政権は、どのようにして成立し、どんな特徴を持っていたか？</p>		
<p>1次 導入</p>		
<p>Q 次は、天皇・貴族中心の政権から武士が政権を握った過程の中で、考えて欲しいことである。この中から一つ選び、これから調べなさい。</p> <p>①武士の台頭（武士とは何か。武士はどのようにして生まれたか。武士はどうやって勢力を伸ばしたか。）</p> <p>②平氏政権（武士の中でも平氏が勢力を伸ばしたのはなぜか。平氏はどのようなことに力を入れたか。また、その財源はどのように確保したか。）</p> <p>③源氏政権1（源氏が平氏に勝ったのはなぜか。平氏と源氏のちがいは何か。なぜ頼朝は鎌倉に本拠地を置いたか。）</p> <p>④源氏政権2（鎌倉幕府を支えた御恩と奉公とはどんなシステムか。頼朝がつくった政治の仕組みはどのようなものか。）</p> <p>⑤鎌倉の生活文化（武士と農民の生活はどうだったか。新しい仏教はどのようなもので、なぜ生まれたか。）</p>		
<p>(1) ①～⑤から調べたいものを各自で決め、同じものを調べる者同士でグループになる。</p> <p>(2) グループで話し合いながら、協力して調べ、問いに対しての回答をつくる活動をおこなう。</p>	<p>・調べようとする。</p>	<p>○次時までには自分なりに調べてくることを指導する。</p>
<p>2次 展開1</p> <p>(1) 各グループで、説明できるように、準備する。</p> <p>(2) 説明用の資料を作成する。</p>	<p>・資料を作成しようとする。</p>	<p>○資料に基づいて、論理的に説明できるように工夫することを指導する。</p> <p>○次時の発表ができるように完成させてくるよう指導する。</p>

<p>3次 展開2</p> <p>(1) 新しいグループをつくる (①～⑤まで一人ずつになるように)</p> <p>(2) それぞれのグループで、説明する。</p> <p>(3) 発表後、質問に答える。 答えられなければ、後日回答する。</p>	<p>・発表する。</p> <p>・質問する。</p> <p>・質問に答える。</p>	<p>○聞いている者は、質問事項を考えるように指導する。</p> <p>・発表資料や発表によって、関心・意欲・態度、思考・判断・表現を評価する。(パフォーマンス評価)</p>
<p>4次 まとめ</p> <p>(1) 展開2のグループで、MQに答える。(数行でまとめ、最終的な結論を出す。又は、武士政権の成立をキーワード化する。)</p>		<p>○生徒の活動で不足した部分や事実と異なる部分を補足する。</p> <p>○調べ方・発表の仕方を指導する。</p>

(参考)

①～⑤の問いに対する答え

①地方の国司になった下級貴族が、赴任した國で巨額な富を得て豪族化し、自分たちの財産や権利を守るために武装したから。都にいる高級貴族へのコンプレックスからくる対抗意識→武力なら対抗できる

力をつけた地方豪族の反乱→反乱を抑えるために、また地方の武力に頼る。

中央から離れていることをいいことに私腹を肥やす。など。

② (省略)

③都での平氏の評判が悪くなり、平氏から離れていく武士が多くなった。

実直な関東武者が源氏に味方した。

源氏は、日頃から武芸に励み、鍛錬していた。平氏は貴族化していた。など

	平氏	源氏
勢力の中心	近畿地方と瀬戸内海院と結び付く	関東地方 摂関家と結び付く
得意な戦い方	海で強い(船を操ることが得意)	陸で強い(馬術が得意)

鎌倉は、源氏の守護神を祭ったところ

父義朝の若い頃、鎌倉を拠点にして付近の武士を従えていた

要害の地(三方が山、一方が海)など

④ (省略)

⑤ (省略)